

平成 30 年度「子供の性被害防止アンケート」
調査分析 報告書

愛知県警察本部生活安全部少年課

目 次

1. 調査の目的	p. 1
2. 調査設計	p. 1
3. 分析担当	p. 1
4. 概要	p. 1
5. 調査結果 (詳報)	p. 3
5-1. 前処理と回答者の特徴	p. 3
5-2. インターネットの利用環境・状況	p. 3
5-3. インターネット使用者の使用状況	p. 3
5-4. 自画撮り被害に関する認識	p. 10
5-5. JK ビジネスに関する認識	p. 14
5-6. JK ビジネスで働くことに対する態度と誘われたときの対応	p. 17
5-7. 本調査で扱った変数同士の関連	p. 18
6. まとめ	p. 19
7. 資料 (実施アンケート)	p. 21

1 調査の目的

本報告書では、平成30年度に愛知県警察本部生活安全部少年課が実施した子供の性被害防止アンケートの調査結果を報告する。

平成29年中、県内の児童ポルノ事件による被害児童数は63人と過去最多を更新し、そのうち約35%が自画撮り被害によるものである。

被害の多くはSNSで知り合った面識のない相手からの要求等によるものであるが、友人、知人等の親しい間柄における被害も発生しており、被害の中心は中・高校生である。

そこで、今後、効果的な児童ポルノや自画撮り被害防止対策を実施するにあたり、まずは中・高生のインターネット利用状況や子供の性被害に対する認識を測定することを目的とした。

2 調査設計

(1) 調査対象

県内の各地区から任意に抽出した公立私立の中・高等学校(全日制)各学年で実施した。

具体的には、中学校28校10,018名(回答率87.3%)、高等学校33校9,833名(回答率94.5%)で実施した。

(2) 調査期間

平成30年12月10日～平成30年12月21日

(3) 調査項目

インターネット利用状況、自画撮り被害、JKビジネスについての認識を尋ねた。

調査項目の選定は、兵庫県立大学竹内和雄准教授の協力を得た。

(4) 方法

ア マークシートを使用した無記名によるアンケート調査を行った。

イ アンケート調査は学校内で実施し、所要時間は15分程度であった。

ウ 調査の実施にあたっては、生徒のプライバシーや人権に十分配慮し、調査目的の説明及び個人が特定されるものではない旨を説明した上で実施した。

エ アンケート調査用紙は、記入後、生徒自身が封筒に入れ、封をしてから回収した。

保護者に対しては、学校を通じて調査目的を事前に説明した上で実施し、調査に関する問い合わせは少年課にて対応した。

(5) サンプルサイズの決定方法

愛知県内の中学生(206,909名)・高校生(183,495名)の数(高等学校生徒合計数に定時制は含めているが、通信制は含めていない)をもとに、測定誤差を1%、信頼度95%、比率50%と設定し、サンプルサイズを中学生・高校生いずれも9,604人以上と決定した。

それをもとに、名古屋、尾張、三河において偏りのないように依頼を行った。

3 分析担当

分析並びに本報告書の作成は、下記の2名が行った。

土屋耕治(南山大学人文学部心理人間学科・講師)・原田知佳(名城大学人間学部・准教授)

4 概要

(1) 中学生のスマホ保持率は、約7割に対し、高校生は9割以上がスマホを持っている。

(2) 1日当たりのインターネット使用は、2時間～4時間と回答している者が4割、また、1日に4時間以上ネットを使用している生徒が、中学生で2割、高校生で3割程度いる。

- (3) インターネットを通じて一番よく行う活動として、「SNS、ゲーム、動画視聴、勉強、その他」の中から一つを選択してもらった結果、女子はSNSや動画視聴を最も多く行うのに対し、中学男子はゲームを最も行っていた。
- (4) 動画投稿をしたことがあるか、という問いへの回答を見ると、動画投稿を一度もしたことがない中学生は女子6割、男子8割と、投稿経験がない者が大半であるのに対し、高校女子では何度も動画投稿経験がある生徒が5割に近い。
- (5) ひと月あたりの課金やネット通販でお金を使った金額に対する回答を見ると、男子の方が多い傾向にあり、月に1万円以上使用している生徒が、中学男子で6%、高校男子で12%いる。
- (6) 会ったことがない人とネット上でやりとりをしたことがあるかを聞いたところ、中学男女の5割が、会ったことがない人と1回以上ネット上でやりとりをしている。さらに、高校男子では6割、高校女子では7割にものぼり、高校女子の5割弱の者は未知の人とネット上で何度もやりとりをしている。
- (7) ネットで知り合った人と会ったことがあるかを尋ねた項目では、中学女子で10%、中学男子で6%、高校男子で18%、高校女子では29%が、ネットで知り合った人と実際に会ったことがあると回答した。
- (8) 自分の顔をSNSに上げた経験を尋ねたところ、中学男子の8割強、高校男子の6割は自分の顔をSNSにあげていないのに対し、中学女子では5割、高校女子では8割が1度以上上げた経験があると回答している。
- (9) 自画撮り被害が生じる可能性がある場面を挙げ、その反応を尋ねた。その結果、9割を超える者が断ると答えた一方、送る可能性に言及した者も、わずかだが存在した。
- (10) 自画撮り被害とは何かを知っているかを尋ねる質問に対して、中・高校生の約4割が、自画撮り被害を聞いたことがないと回答していた。
- (11) 自画撮り被害者の話を周りで1度以上聞いたことがあると回答した割合は、中学生で約5%、高校生で13%であった。
- (12) 自画撮り被害にあった場合、相談するかどうかを尋ねたところ、「多分相談しない」「相談しない」と回答した割合は、中学女子で15%、中学男子で22%、高校男子で30%、高校女子で23%であった。
- (13) JKビジネスという言葉は、高校生は約半数が知っているが、中学生は半数以上が知らないという傾向が見られた。
- (14) JKビジネスで働いている18歳未満の知り合いの有無を尋ねたところ、高校生では、5%が一人以上の知り合いがいると回答し、噂だけは聞いたことがあるという者も5%弱いる。
- (15) JKビジネスに誘われたらどうするかを尋ねたところ、働く可能性がある者（「条件がよければ働くかもしれない」「条件がよければ働く」「働いている（いた）」の合計）は、中学女子では約3%、高校女子では6%弱存在する。
- (16) 18歳未満の子がJKビジネスで働くことに関する態度を尋ねたところ、そもそも働くべきではない、という回答を行った者が4割で最も多いものの、仕方ない・問題ないと捉える者も1割弱存在する。
- (17) 相関分析の結果、
ア ネット利用時間が長いほど、課金・通販使用額が多く、会ったことがない人とのネッ

ト上のやりとり経験もある

イ 動画投稿経験があるほど、会ったことがない人とのネットのやりとり経験があり、ネットで知り合った人と対面で会う経験がある

ウ 会ったことがない人とネットのやり取りをした経験があるほど、実際に会った経験がある

という関連が示された。

5 調査結果（詳報）

5-1. 前処理と回答者の特徴

封筒を開封し、マークシートの読み取りを行った。回答範囲外に回答をしていた項目は欠損値として処理した。

5-1-1. 学職

本調査の有効回答の属性を述べる。回答数は、18,098名、男性9,569名、女性8,158名、未回答371名であった。

中学生は、8,811名、高校生は9,208名、未回答が79名であった。

愛知県内の地域では、三河が4,462名、尾張が6,986名、名古屋が6,650名であった。

5-2. インターネットの利用環境・状況

回答者のインターネットの利用環境・状況に関する質問について報告を行う。

具体的には、自分専用の端末の有無、使用状況などについて尋ねた。

5-2-1. 「項目4. 自分専用の携帯電話（スマートフォンを含む）を持っていますか」

自分専用の携帯電話を持っているかという問いに対する回答に、中高男女で違いがあるかを検討した。その結果、表1のようになった。

全体としては、高校生の方が中学生よりスマホを持っている。

中学生のスマホ所持率は、約7割なのに対し、高校生は、9割以上がスマホを持っている。

中学生も6、7割が自分専用のスマホを持っていた。また、スマホとキッズ携帯両方を持っている割合は高校生より中学生の方が多かった ($\chi^2(9) = 2304.67, \phi = .36$)。

中学生から高校生にかけて、スマホに関する環境は大きく変わると考えられる。

具体的には、中学生では、「持っていない」「キッズケータイを持っている」という回答が25%から30%近くいるのに対し、高校生では、それらの回答が5%以下となっている。

つまり、中学生から高校生に上がる際に、保護者の監督環境は大きく変化することが伺える。

一方、中学生であっても、既にスマホの所持率は約7割と高い所持率であることを考えると、スマホに関する施策は、中学生以前から考えていく必要があるかもしれない。

表1 自分専用の端末の保持

		持っていない	ガラケー(キッズ ケータイ)	スマホ	両方	合計
中学男子	度数	1,089	310	3,095	184	4,678
	%	23.3%	6.6%	66.2%	3.9%	100.0%
中学女子	度数	620	226	2,926	195	3,967
	%	15.6%	5.7%	73.8%	4.9%	100.0%
高校男子	度数	140	30	4,597	64	4,831
	%	2.9%	0.6%	95.2%	1.3%	100.0%
高校女子	度数	63	32	4,007	49	4,151
	%	1.5%	0.8%	96.5%	1.2%	100.0%
合計	度数	1,912	598	14,625	492	17,627
	%	10.8%	3.4%	83.0%	2.8%	100.0%

5-2-2. 「項目5. 1日にどれくらいインターネットを使いますか。(タブレット等、ゲーム機、保護者のスマホ等を使うことも含む)」

1日にどれくらいインターネットを使うかという項目への回答を検討した(表2)。

その結果、中学生では、1時間未満の回答率が、18%程度であるのに対し、高校生では、その比率が10%となっている。

全体として見ても、2時間～4時間と回答している者が4割となっている。

また、1日に4時間以上ネットを使用している生徒が、中学生で2割、高校生で3割程度いることが明らかとなった。

このデータは、高校生の利用時間の平均値が、平日で3.86時間、休日で4.43時間であったという齋藤・本庄・橋本(2015)のデータと整合的であろう。

次の項目である、使用状況との兼ね合いもあるものの、4時間以上という自己報告をする者が3割を超えるのは、自分専用のスマホを持っている者の比率の高さを考え合わせると、スマホ依存との関係も考えていく必要があるだろう。

表2 1日あたりのインターネット使用時間

		しない	～1時間	1時間～	2時間～	3時間～	4時間～	5時間～	合計
中学男子	度数	226	603	802	1,067	942	491	540	4,671
	%	4.8%	12.9%	17.2%	22.8%	20.2%	10.5%	11.6%	100.0%
中学女子	度数	142	589	656	864	757	487	477	3,972
	%	3.6%	14.8%	16.5%	21.8%	19.1%	12.3%	12.0%	100.0%
高校男子	度数	133	333	640	994	1,053	691	987	4,831
	%	2.8%	6.9%	13.2%	20.6%	21.8%	14.3%	20.4%	100.0%
高校女子	度数	47	379	603	920	875	572	750	4,146
	%	1.1%	9.1%	14.5%	22.2%	21.1%	13.8%	18.1%	100.0%
合計	度数	548	1,904	2,701	3,845	3,627	2,241	2,754	17,620
	%	3.1%	10.8%	15.3%	21.8%	20.6%	12.7%	15.6%	100.0%

5-3. インターネット使用者の使用状況

続いては、インターネット使用者が、どのような使用を行っているかを尋ねる項目に関する報告を行う。

5-3-1. 「項目6. 一番、よくするのは次のどれですか。(1つだけにマークをつけてください)」

一番よく行う活動として、「SNS、ゲーム、動画視聴、勉強、その他」の中から一つを選択してもらった。

その結果、中学女子はSNSや動画視聴を最も多く行うのに対し、中学男子はゲームを最も行っていた。

高校でも同様の傾向で、男子はゲーム、女子はSNS利用が多いという傾向が見られる(表3、 $\chi^2(12) = 3212.50, p = .44$)。中高男女問わず、3~4割の生徒が動画視聴をよく行っている。なお、一番よくする活動に「勉強」と解答する生徒は中学生で3%、高校生で2%であった。

表3 インターネット使用状況

		LINEやツイッター (SNS)	ゲーム	YouTube等の動画	勉強	その他	合計
中学男子	度数	585	1,969	1,627	115	128	4,424
	%	13.2%	44.5%	36.8%	2.6%	2.9%	100.0%
中学女子	度数	1,564	381	1,543	121	187	3,796
	%	41.2%	10.0%	40.6%	3.2%	4.9%	100.0%
高校男子	度数	1,038	1,713	1,637	94	146	4,628
	%	22.4%	37.0%	35.4%	2.0%	3.2%	100.0%
高校女子	度数	2,290	354	1,185	69	154	4,052
	%	56.5%	8.7%	29.2%	1.7%	3.8%	100.0%
合計	度数	5,477	4,417	5,992	399	615	16,900
	%	32.4%	26.1%	35.5%	2.4%	3.6%	100.0%

5-3-2. 「項目7. 動画投稿をしたことがありますか。(YouTube、ストーリー、ツイキャス、LINELIVE 等も含む)」

動画投稿をしたことがあるか、という問いへの回答を見ると、動画投稿を一度もしたことがない中学生は女子6割、男子8割と、投稿経験がない者が大半であるのに対し、高校女子では何度も動画投稿経験がある生徒が5割に近い(表4、 $\chi^2(6) = 1868.13, p = .33$)。

女子にSNS使用者が多いという前項目の傾向と考え合わせると、高校女子がSNSの利用に際し、動画を投稿する経験が他の群に比べて多いことが伺える。

表4 動画投稿経験

		一度もない	一度はある	何度もある	合計
中学男子	度数	3,591	411	405	4,407
	%	81.5%	9.3%	9.2%	100.0%
中学女子	度数	2,510	450	843	3,803
	%	66.0%	11.8%	22.2%	100.0%
高校男子	度数	2,858	654	1,130	4,642
	%	61.6%	14.1%	24.3%	100.0%
高校女子	度数	1,680	447	1,946	4,073
	%	41.2%	11.0%	47.8%	100.0%
合計	度数	10,639	1,962	4,324	16,925
	%	62.9%	11.6%	25.5%	100.0%

5-3-3. 「項目8. ネットゲームやスタンプなどの課金（ポイントを貯めたものも含む）やネット通販でお金を使ったことがありますか。」

ひと月あたりの課金やネット通販でお金を使った金額に対する回答を見ると、高校男子が一月に千円以上課金や通販でお金を使用している割合が高い（表5）。

月に1万円以上使用している生徒が、中学男子で6%、高校男子で12%いる。

動画投稿は女子が高い傾向があるのに対して、課金やお金を使っている経験は、男子生徒の方が高い傾向にあることが示唆される（ $\chi^2(18) = 1465.34, p = .29$ ）。これは、先の中・高校生の男子のゲーム利用率の高さを鑑みると、ゲームでの課金に使用している可能性が示唆される。

表5 課金やネット通販での使用金額（ひと月あたり）

		一度もない	～500円	500円～	1,000円～	5,000円～	10,000円～	50,000円～	合計
中学男子	度数	2,417	483	265	734	241	214	60	4,414
	%	54.8%	10.9%	6.0%	16.6%	5.5%	4.8%	1.4%	100.0%
中学女子	度数	2,548	591	177	336	86	49	14	3,801
	%	67.0%	15.5%	4.7%	8.8%	2.3%	1.3%	0.4%	100.0%
高校男子	度数	1,643	633	330	1,054	430	426	142	4,658
	%	35.3%	13.6%	7.1%	22.6%	9.2%	9.1%	3.0%	100.0%
高校女子	度数	1,737	844	278	765	252	162	37	4,075
	%	42.6%	20.7%	6.8%	18.8%	6.2%	4.0%	0.9%	100.0%
合計	度数	8,345	2,551	1,050	2,889	1,009	851	253	16,948
	%	49.2%	15.1%	6.2%	17.0%	6.0%	5.0%	1.5%	100.0%

5-3-4. 「項目9. 会ったことがない人とネット上でやりとりをしたことはありますか。」

会ったことがない人とネット上でやりとりをしたことがあるかを聞いたところ、中学男女の5割が、会ったことがない人と1回以上ネット上でやりとりをしている（表6）。

さらに、高校男子では6割、高校女子では7割にものぼり、高校女子の5割弱の者は未知の人とネット上で何度もやりとりをしている。

会ったことがない人とネット上でやりとりをするのは、少数の者が行うものではなく、中高

生では、半数が行うこと、つまり、ありふれた事柄であることが伺える。

とくに、高校女子は、その経験が、他の群と比較して高い傾向にある ($\chi^2(6) = 822.90, \varphi = .22$)。

これは、後にあげるような自画撮り被害との関連を考えると、会ったことがない人とネット上でやりとりした経験がある生徒の母数が多いことは、それだけリスクにさらされているということがいえよう。

また、男女別に学年の変化を見たところ、女性において、とくに高校生になる段階で一度もないという回答した割合が大きく減少している (図1)。

表6 会ったことがない人とネット上でやりとりした経験

		一度もない	一度はある	何度もある	合計
中学男子	度数	2,429	728	1,267	4,424
	%	54.9%	16.5%	28.6%	100.0%
中学女子	度数	1,901	789	1,125	3,815
	%	49.8%	20.7%	29.5%	100.0%
高校男子	度数	1,666	1,147	1,830	4,643
	%	35.9%	24.7%	39.4%	100.0%
高校女子	度数	1,127	1,103	1,844	4,074
	%	27.7%	27.1%	45.3%	100.0%
合計	度数	7,123	3,767	6,066	16,956
	%	42.0%	22.2%	35.8%	100.0%

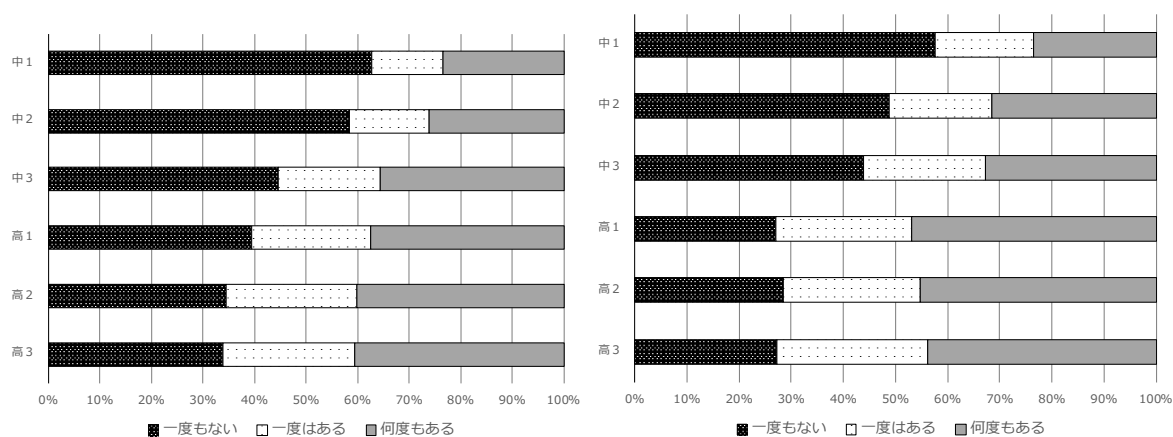


図1 学年別の会ったことがない人とネット上でやりとりした経験 (左は男子, 右は女子)

5-3-5. 「項目10. ネットで知り合った人と実際に会ったことはありますか。」

ネットで知り合った人と会ったことがあるかを尋ねた項目では、中学女子で10%、中学男子で6%、高校男子で18%、高校女子では29%が、ネットで知り合った人と実際に会ったことがあると回答した (表7)。

中学生・高校生とも、女子の方が会った経験がある生徒が多い。

また、何度も会ったことがあると回答した割合は、高校女子が高い ($\chi^2(6) = 1002.36, \varphi = .24$)。

高校女子において3割が経験することとして、ネットで知り合った人と実際に会うというこ

とがあるならば、当人たちにとっては、よくあること、と捉えられている可能性がある。

ただ、直接会うことによって様々なリスクが生じることを考えても、こういった経緯で会うことになったのか、その中で高いリスクがあるものは何かということを精緻に検討していく必要があるだろう。

また、男女別に、学年の変化を見たところ、とくに女性において、高校生の1年生から3年生へと学年が上がるにつれ、一度もないという回答した割合が減少している（図2）。

表7 ネットで知り合った人と実際に会った経験

		一度もない	一度はある	何度もある	合計
中学男子	度数	4,169	153	107	4,429
	%	94.1%	3.5%	2.4%	100.0%
中学女子	度数	3,440	226	145	3,811
	%	90.3%	5.9%	3.8%	100.0%
高校男子	度数	3,798	477	389	4,664
	%	81.4%	10.2%	8.3%	100.0%
高校女子	度数	2,896	617	563	4,076
	%	71.1%	15.1%	13.8%	100.0%
合計	度数	14,303	1,473	1,204	16,980
	%	84.2%	8.7%	7.1%	100.0%

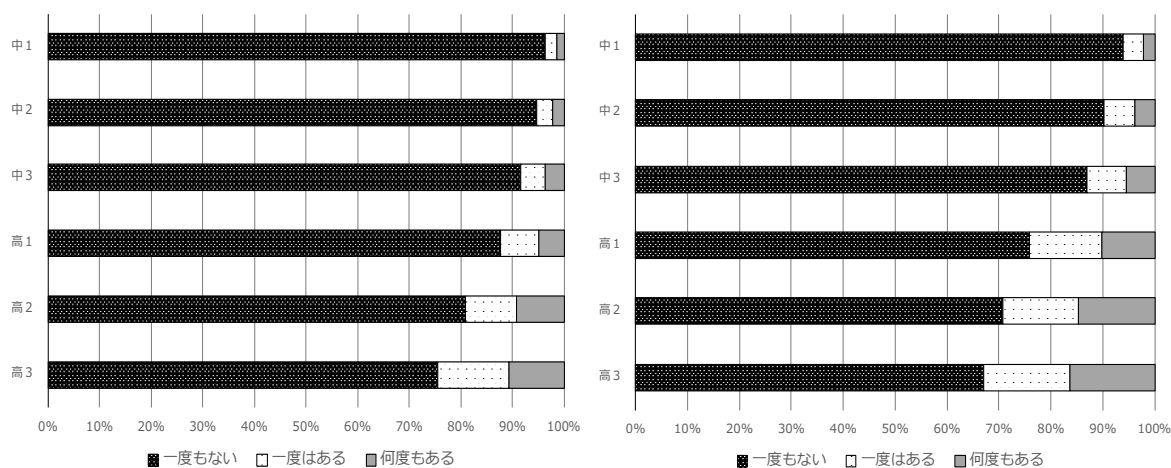


図3 学年別のネットで知り合った人と実際に会った経験 (左は男子, 右は女子)

5-3-6. 「項目 11. 自分の顔を SNS に上げることがありますか。(アプリのアイコンを顔写真にすることも含む)」

自分の顔を SNS に上げた経験を尋ねたところ、中学男子の 8 割強、高校男子の 6 割は自分の顔を SNS にあげていないのに対し、中学女子では 5 割、高校女子では 8 割が 1 度以上上げた経験があると回答している (表 8)。

全体として、投稿経験は男子よりも女子が高い。そのなかでも、高校女子において、何度も上げた経験があると回答した者が 6 割近くにおよび、突出して高いことが分かる ($\chi^2(6) = 4304.97, p = .50$)。

これまでの回答への傾向を鑑みると、SNS を使うことの多い高校女子が、容姿に対する関心が高まる青年期において、自らの姿をウェブ上に上げる傾向が高い、といえる。

表 8 自分の顔を SNS に上げた経験

		一度もない	一度はある	何度もある	合計
中学男子	度数	3,815	392	223	4,430
	%	86.1%	8.8%	5.0%	100.0%
中学女子	度数	1,844	747	1,223	3,814
	%	48.3%	19.6%	32.1%	100.0%
高校男子	度数	2,776	993	890	4,659
	%	59.6%	21.3%	19.1%	100.0%
高校女子	度数	907	740	2,431	4,078
	%	22.2%	18.1%	59.6%	100.0%
合計	度数	9,342	2,872	4,767	16,981
	%	55.0%	16.9%	28.1%	100.0%

5-4. 自画撮り被害に関する認識

ここからは、自画撮り被害の認識に関する項目の報告を行う。

具体的には、自画撮り被害が生じる可能性がある場面での反応、自画撮り被害という事柄の認知、身近な事例の経験について尋ねる項目で構成されていた。

5-4-1. 「項目 12. もし、あなたが『下着姿や裸の写真を撮らせて』『送って』と頼まれたらどうしますか。」

自画撮り被害が生じる可能性がある場面を挙げ、その反応を尋ねた。その結果、9割を超える者が断ると答えた一方、送る可能性に言及したものも、わずかだが存在した（表9）。

自画撮り被害の加害者は、被害者の交際相手（元を含む）や友人・知人であるケースが2割（愛知県警察本部少年課，2018）あるため、交際相手や友人・知人であっても、性的な自画撮り写真を送付することは危険を伴う。全体の約3%が自画撮り写真を送る可能性に言及しているが、このあたりの意識に対する介入が必要かもしれない。

一方で、自画撮り被害の加害者の8割は、被害者と面識がない人物であり（愛知県警察本部少年課，2018）、被害者と同姓・同年齢であると偽ったり、自分の裸の写真と交換で自画撮り写真の送付を求めたりと、巧みな手口で被害者を騙すケースも存在する。

そのため、自画撮り写真の送付を断ると回答した者に対しても、こうした被害の実態を周知する必要があるだろう。

表9 自画撮り被害が生じる可能性がある場面での反応

		絶対断る	たぶん断る	交際相手等に何度も頼まれたら送るかも	たぶん送る	送る	合計
中学男子	度数	4,272	310	65	12	22	4,681
	%	91.3%	6.6%	1.4%	0.3%	0.5%	100.0%
中学女子	度数	3,769	150	44	5	5	3,973
	%	94.9%	3.8%	1.1%	0.1%	0.1%	100.0%
高校男子	度数	4,162	465	124	46	50	4,847
	%	85.9%	9.6%	2.6%	0.9%	1.0%	100.0%
高校女子	度数	3,843	211	80	10	13	4,157
	%	92.4%	5.1%	1.9%	0.2%	0.3%	100.0%
合計	度数	16,046	1,136	313	73	90	17,658
	%	90.9%	6.4%	1.8%	0.4%	0.5%	100.0%

5-4-2. 「項目 13. 『自画撮り被害』とは『自分の裸や下着姿の写真を送って被害にあうこと』ですが、知っていましたか。」

自画撮り被害とは何かを知っているかを尋ねる質問に対して、中高生の約4割が、自画撮り被害を聞いたことがないと回答していた（表10）。

自画撮り被害という案件があると知っている場合とそうではない場合では、スマホでの個人情報の取扱いについて、異なってくると考えられる。

適切に自分で自分を守るという観点からも、この言葉の認知、また、どのような経緯で事件に巻き込まれてしまうのか、ということを知っておく必要があるだろう。

表10 自画撮り被害の認知

		意味も知っていた	言葉は聞いたことがあるが 意味は知らなかった	聞いたことがない	合計
中学男子	度数	1,702	1,085	1,893	4,680
	%	36.4%	23.2%	40.4%	100.0%
中学女子	度数	1,129	1,099	1,743	3,971
	%	28.4%	27.7%	43.9%	100.0%
高校男子	度数	2,302	966	1,581	4,849
	%	47.5%	19.9%	32.6%	100.0%
高校女子	度数	1,380	964	1,816	4,160
	%	33.2%	23.2%	43.7%	100.0%
合計	度数	6,513	4,114	7,033	17,660
	%	36.9%	23.3%	39.8%	100.0%

5-4-3. 「項目 14. 『自画撮り被害』にあった人をあなたの周りで聞いたことがありますか。」

自画撮り被害者の話を周りで1度以上聞いたことがあると回答した割合は、中学生で約5%、高校生で13%であった（表11）。

中・高校生の一部では、実際にそうした被害が存在していることが示唆される。

表11 自画撮り被害にあった人を周りで聞いたことがあるか

		一度もない	一度はある	何度もある	合計
中学男子	度数	4,388	198	91	4,677
	%	93.8%	4.2%	1.9%	100.0%
中学女子	度数	3,771	159	40	3,970
	%	95.0%	4.0%	1.0%	100.0%
高校男子	度数	4,209	487	134	4,830
	%	87.1%	10.1%	2.8%	100.0%
高校女子	度数	3,624	469	65	4,158
	%	87.2%	11.3%	1.6%	100.0%
合計	度数	15,992	1,313	330	17,635
	%	90.7%	7.4%	1.9%	100.0%

5-4-4. 「項目 15. 『自画撮り被害』にあったら誰かに相談しますか。」

自画撮り被害にあった場合、相談するかどうかを尋ねたところ、「多分相談しない」「相談しない」と回答した割合は、中学女子で 15%、中学男子で 22%、高校男子で 30%、高校女子で 23%であった（表 1 2）。

被害にあったときに、相談することでどのような事柄がもたらされるかということが分かれば、相談する割合も高くなるかもしれない。

表 1 2 自画撮り被害にあったときに相談するか

		相談する	たぶん相談する	たぶん相談しない	相談しない	合計
中学男子	度数	2,219	1,386	607	444	4,656
	%	47.7%	29.8%	13.0%	9.5%	100.0%
中学女子	度数	2,068	1,264	451	173	3,956
	%	52.3%	32.0%	11.4%	4.4%	100.0%
高校男子	度数	1,945	1,428	769	648	4,790
	%	40.6%	29.8%	16.1%	13.5%	100.0%
高校女子	度数	1,745	1,458	673	264	4,140
	%	42.1%	35.2%	16.3%	6.4%	100.0%
合計	度数	7,977	5,536	2,500	1,529	17,542
	%	45.5%	31.6%	14.3%	8.7%	100.0%

5-4-5. 「項目 16. 15. で 1 「相談する」 2 「たぶん相談する」と答えた人は誰に相談しますか。」

中学生も高校生も 4~5 割は最初は保護者へ相談すると回答しているが、最初の相談者として保護者を選択する者は、高校生になると若干減る（表 1 3、表 1 4）。中・高校生の男子は女子より、最初に先生や警察へ相談すると回答する生徒が多い（ $\chi^2(15) = 577.58, \phi = .21$ ）。

二番目に相談する相手も含めると、7~8 割が保護者へ、2 割が教師・警察へ相談すると回答している。

このことから、自画撮り被害とはどのようなもので、それに対してどのような対応ができるかという知識を、保護者・教師も持つ必要があるだろう。

表 1 3 自画撮り被害時に相談するであろう相手（一番最初に相談すると思う人）

		先生	保護者	友だち	警察	ネットの 知り合い	その他	合計
中学男子	度数	193	2,054	1,103	251	26	67	3,694
	%	5.2%	55.6%	29.9%	6.8%	0.7%	1.8%	100.0%
中学女子	度数	75	1,912	1,178	83	66	45	3,359
	%	2.2%	56.9%	35.1%	2.5%	2.0%	1.3%	100.0%
高校男子	度数	226	1,461	1,383	278	55	82	3,485
	%	6.5%	41.9%	39.7%	8.0%	1.6%	2.4%	100.0%
高校女子	度数	71	1,422	1,521	95	57	87	3,253
	%	2.2%	43.7%	46.8%	2.9%	1.8%	2.7%	100.0%
合計	度数	565	6,849	5,185	707	204	281	13,791
	%	4.1%	49.7%	37.6%	5.1%	1.5%	2.0%	100.0%

表 1 4 自画撮り被害時に相談するであろう相手(二番目に相談すると思う人)

		先生	保護者	友だち	警察	ネットの 知り合い	その他	合計
中学男子	度数	930	937	937	633	67	159	3,663
	%	25.4%	25.6%	25.6%	17.3%	1.8%	4.3%	100.0%
中学女子	度数	554	921	1,023	588	100	141	3,327
	%	16.7%	27.7%	30.7%	17.7%	3.0%	4.2%	100.0%
高校男子	度数	651	1,063	863	532	118	205	3,432
	%	19.0%	31.0%	25.1%	15.5%	3.4%	6.0%	100.0%
高校女子	度数	322	1,150	897	537	124	183	3,213
	%	10.0%	35.8%	27.9%	16.7%	3.9%	5.7%	100.0%
合計	度数	2,457	4,071	3,720	2,290	409	688	13,635
	%	18.0%	29.9%	27.3%	16.8%	3.0%	5.0%	100.0%

5-5. JKビジネスに関する認識

ここからは、JKビジネスの認識に関する項目の報告を行う。

具体的には、JKビジネスという事柄の認知、身近な事例の経験について尋ねる項目、JKビジネスへの態度を尋ねる項目で構成されていた。

5-5-1. 「項目 18. 『JK（女子高生の略称）ビジネス』という言葉を知っていますか。」

JKビジネスという言葉を知っているかどうかを尋ねた。その結果、高校生は約半数が知っているが、中学生は半数以上が知らないという傾向が見られた（表15）。

ただし、JKビジネスという言葉が指す、高校女子であっても知らない者が半数存在する。

表15 JKビジネスという言葉を知っているか

		意味を知っている	聞いたことがあるが 意味は知らない	聞いたことがない	合計
中学男子	度数	1,299	814	2,532	4,645
	%	28.0%	17.5%	54.5%	100.0%
中学女子	度数	1,006	769	2,173	3,948
	%	25.5%	19.5%	55.0%	100.0%
高校男子	度数	2,523	990	1,267	4,780
	%	52.8%	20.7%	26.5%	100.0%
高校女子	度数	1,994	896	1,232	4,122
	%	48.4%	21.7%	29.9%	100.0%
合計	度数	6,822	3,469	7,204	17,495
	%	39.0%	19.8%	41.2%	100.0%

5-5-2. 「項目 19. 『JKビジネス』で働いている18歳未満の知り合いがいますか。」

JKビジネスで働いている18歳未満の知り合いの有無を尋ねたところ、高校生では、5%が一人以上の知り合いがいると回答した。また、噂だけは聞いたことがあるという者も5%弱いる（表16）。

表16 JKビジネスで働いている18歳未満の知り合いの有無

		1人もいない	1人はいる	複数人いる	噂だけは聞いた ことがある	合計
中学男子	度数	4,426	49	43	71	4,589
	%	96.4%	1.1%	0.9%	1.5%	100.0%
中学女子	度数	3,765	61	24	48	3,898
	%	96.6%	1.6%	0.6%	1.2%	100.0%
高校男子	度数	4,324	145	102	221	4,792
	%	90.2%	3.0%	2.1%	4.6%	100.0%
高校女子	度数	3,722	134	76	197	4,129
	%	90.1%	3.2%	1.8%	4.8%	100.0%
合計	度数	16,237	389	245	537	17,408
	%	93.3%	2.2%	1.4%	3.1%	100.0%

5-5-3. 「項目 20. 『JKビジネス』に誘われたらどうしますか。(男女を問わず、自分の立場におきかえて回答してください)」

JKビジネスに誘われたらどうするかを尋ねたところ、働く可能性がある者（「条件がよければ働くかもしれない」「条件がよければ働く」「働いている（いた）」の合計）は、中学女子では約3%、高校女子では6%弱存在する（表17）。

5-5-4. 「項目 21. 18歳未満の子が『JKビジネス』で働くことをどう思いますか。」

18歳未満の子がJKビジネスで働くことに関する態度を尋ねたところ、そもそも働くべきではない、という回答を行った者が4割で最も多いものの、仕方ない・問題ないと捉える者も一定数存在する（表18、表19）。

表17 JKビジネスに誘われたときの対応（男女を問わず、自分の立場におきかえて回答）

		絶対断る	たぶん断る	条件が良ければ働くかも	条件がよければ働く	働いている（いた）	合計
中学男子	度数	3,819	485	153	75	25	4,557
	%	83.8%	10.6%	3.4%	1.6%	0.5%	100.0%
中学女子	度数	3,376	368	82	30	10	3,866
	%	87.3%	9.5%	2.1%	0.8%	0.3%	100.0%
高校男子	度数	3,729	601	255	135	36	4,756
	%	78.4%	12.6%	5.4%	2.8%	0.8%	100.0%
高校女子	度数	3,457	413	154	66	14	4,104
	%	84.2%	10.1%	3.8%	1.6%	0.3%	100.0%
合計	度数	14,381	1,867	644	306	85	17,283
	%	83.2%	10.8%	3.7%	1.8%	0.5%	100.0%

表18 18歳未満の子がJKビジネスで働くことに対する態度（一番目に思うこと）

		お金のためならしかたがない	働く子も客も納得しているから問題ない	みんなやっていることだから問題ない	風俗や薬物などの危ない世界につながりそうで危険	親や家族を悲しませるかもしれない	そもそも働くべきではない	合計
中学男子	度数	437	301	21	732	830	2,222	4,543
	%	9.6%	6.6%	0.5%	16.1%	18.3%	48.9%	100.0%
中学女子	度数	283	149	8	881	768	1,765	3,854
	%	7.3%	3.9%	0.2%	22.9%	19.9%	45.8%	100.0%
高校男子	度数	680	578	20	858	712	1,905	4,753
	%	14.3%	12.2%	0.4%	18.1%	15.0%	40.1%	100.0%
高校女子	度数	360	334	10	1,097	670	1,642	4,113
	%	8.8%	8.1%	0.2%	26.7%	16.3%	39.9%	100.0%
合計	度数	1,760	1,362	59	3,568	2,980	7,534	17,263
	%	10.2%	7.9%	0.3%	20.7%	17.3%	43.6%	100.0%

表19 18歳未満の子がJKビジネスで働くことに対する態度（二番目に思うこと）

		お金のためならしかたがない	働く子も客も納得しているから問題ない	みんなやっていることだから問題ない	風俗や薬物などの危ない世界につながりそうで危険	親や家族を悲しませるかもしれない	そもそも働くべきではない	合計
中学男子	度数	492	237	47	1,134	1,556	955	4,421
	%	11.1%	5.4%	1.1%	25.7%	35.2%	21.6%	100.0%
中学女子	度数	279	167	20	1,179	1,377	753	3,775
	%	7.4%	4.4%	0.5%	31.2%	36.5%	19.9%	100.0%
高校男子	度数	713	407	50	1,067	1,404	1,018	4,659
	%	15.3%	8.7%	1.1%	22.9%	30.1%	21.9%	100.0%
高校女子	度数	462	315	18	1,145	1,300	779	4,019
	%	11.5%	7.8%	0.4%	28.5%	32.3%	19.4%	100.0%
合計	度数	1,946	1,126	135	4,525	5,637	3,505	16,874
	%	11.5%	6.7%	0.8%	26.8%	33.4%	20.8%	100.0%

5-6. JKビジネスで働くことに対する態度と誘われたときの対応

5-6-1. JKビジネスで働くことに対する態度と誘われたときの対応の関連

JKビジネスで働くことに対する態度と、誘われたときの対応の関連を調べるため、回答を、「断る（絶対断る、たぶん断る、の合計）」と「働く可能性あり（条件が良ければ働くかも、条件がよければ働く、働いている（いた）、の合計）」の2つに割当て、その比率を比較した。

分析の結果、誘われたときの対応と、ビジネスで働くことへの態度の間には関連が見られ、中学女子、高校女子ともに、「働く可能性あり」と回答した者の方が、「仕方がない」「問題がない」という態度を持っている比率が高かった（表20、表21）。また、「断る」と回答した者の方が、「危ない世界につながりそうで危険」「親や家族を悲しませるかもしれない」「そもそも働くべきではない」という態度を持っている比率が低かった。

特に、「お金のためならしかたがない」という回答について、「断る」と答えた者の中では6%が選択したのに対し、「働く可能性あり」と答えた者では40%が選択をしている。また、「そもそも働くべきではない」という回答について、「断る」と答えた者の中では40%を超える者が選択したのに対し、「働く可能性あり」と答えた者では、8%台にとどまっている。

JKビジネスで働くことをどう考えるかということが、実際に誘われたときの対応と関連することがうかがえる。JKビジネスで得られることや、そのリスクについても、伝えていくことが必要であると同時に、こうした意識と経済的背景の関連、また、お金を稼ぐことについて意識との関連も丁寧に探っていくことも今後は必要であろう。

表20 中学女子におけるJKビジネスで働くことに対する態度と誘われたときの対応

		JKビジネスで働くことへの態度						合計
		お金のためならしかたがない	働く子ども客も納得しているから問題ない	みんなやっているとだから問題ない	風俗や薬物などの危ない世界につながりそうで危険	親や家族を悲しませるかもしれない	そもそも働くべきではない	
断る （「絶対断る」「たぶん断る」の合計）	度数	233	123	6	854	744	1,747	3,707
	%	6.3%	3.3%	0.2%	23.0%	20.1%	47.1%	100.0%
働く可能性あり （「条件が良ければ働くかも」「条件がよければ働く」「働いている（いた）」の合計）	度数	49	26	2	21	10	10	118
	%	41.5%	22.0%	1.7%	17.8%	8.5%	8.5%	100.0%

表21 高校女子におけるJKビジネスで働くことに対する態度と誘われたときの対応

		JKビジネスで働くことへの態度						合計
		お金のためならしかたがない	働く子ども客も納得しているから問題ない	みんなやっているとだから問題ない	風俗や薬物などの危ない世界につながりそうで危険	親や家族を悲しませるかもしれない	そもそも働くべきではない	
断る （「絶対断る」「たぶん断る」の合計）	度数	266	271	3	1,060	633	1,613	3,846
	%	6.9%	7.0%	0.1%	27.6%	16.5%	41.9%	100.0%
働く可能性あり （「条件が良ければ働くかも」「条件がよければ働く」「働いている（いた）」の合計）	度数	92	62	7	26	23	20	230
	%	40.0%	27.0%	3.0%	11.3%	10.0%	8.7%	100.0%

5-7. 本調査で扱った変数同士の関連

以下、本調査で扱った変数同士の関連から考察を加える。具体的には、回答項目のうち、回答の数値が順位性を持つものとして、項目01_学年(中学1年～高校3年)、項目05_ネット利用時間、項目07_動画投稿経験、項目08_課金・通販使用額、項目09_会ったことがない人とのネット上のやりとりの経験、項目10_ネットで知り合った人と対面で会った経験、項目11_顔をSNS上にアップした経験、項目12_自画撮り送信を頼まれたときの対応、項目13_自画撮り被害定義の認知、項目14_周りの自画撮り被害者の有無、項目15_自画撮り被害時の相談傾向、項目18_JKビジネスの認知、項目20_JKビジネスに誘われたときの対応、を扱った。

算出した順位相関係数の値を、表2に示した。順位相関係数は-1から1の値をとり、絶対値が大きいほど関連が強いことを示す。

本報告では、絶対値が.30以上のものを弱い相関があるもの、絶対値が.40以上のものを相関があるものとして報告する。

ネット利用時間は、課金・通販使用額、会ったことがない人とのネット上のやりとり、と弱い正の関連が認められ、ネット利用時間が長いほど、課金・通販使用額が多く、会ったことがない人とのネット上のやりとり経験もあるという関連が示された。

動画投稿経験は、会ったことがない人とのネットのやりとり、ネットで知り合った人と対面で会う、顔をSNS上にアップ、と正の関連が示され、動画投稿経験があるほど、会ったことがない人とのネットのやりとり経験があり、ネットで知り合った人と対面で会う経験があるという関連が示された。

ネットで知り合った人と対面で会った経験と、会ったことがない人とネットのやりとりをした経験との間にも関連が示され、会ったことがない人とネットのやり取りをした経験があるほど、実際に対面であった経験があるという関連が示された。

表2 本調査で扱った変数同士の関連

	項目05 ネット利用 時間	項目07 動画投稿経 験	項目08 課金・通販 使用額	項目09 会ったことがな い人とのネット 上やりとりの経 験	項目10 ネットで知 り合った人と対 面で会った経験	項目11 顔をSNS上 にアップし た経験	項目12 自画撮り送 信を頼まれ たときの対 応	項目13 自画撮り被 害定義の認 知	項目14 周りの自画 撮り被害者 の有無	項目15 自画撮り被 害時の相談 傾向	項目18 JKビジネス の認知	項目20 JKビジネス に誘われた ときの対応
項目01_学年(中1～高3)	.13	.23	.24	.20	.23	.28	.08	-.07	.12	.11	-.31	.07
項目05_ネット利用時間		.22	.32	.35	.21	.12	.06	-.06	.07	.10	-.12	.09
項目07_動画投稿経験			.22	.37	.33	.51	.08	.00	.15	.06	-.13	.10
項目08_課金・通販使用額				.35	.24	.12	.11	-.06	.12	.12	-.17	.15
項目09_会ったことがない人とのネット上やりとりの経験					.40	.25	.12	-.04	.14	.17	-.18	.16
項目10_ネットで知り合った人と対面で会った経験						.26	.13	-.06	.17	.09	-.17	.15
項目11_顔をSNS上にアップした経験							.06	.08	.15	.03	-.09	.07
項目12_自画撮り送信を頼まれたときの対応								-.05	.13	.16	-.11	.35
項目13_自画撮り被害定義の認知									-.08	.04	.27	-.03
項目14_周りの自画撮り被害者の有無										.07	-.11	.13
項目15_自画撮り被害時の相談傾向											-.07	.22
項目18_JKビジネスの認知												-.14
項目20_JKビジネスに誘われたときの対応												

※ $n = 16,812 \sim 18,007$ 。値はスピアマンの順位相関係数。00とある部分以外はすべてにおいて $p < .001$ で統計的有意。網掛けは絶対値が.30以上のもの。

これらをまとめると、ネット利用時間、会ったことがない人とのネット上でのやりとり、動画投稿の経験、ネットで知り合った人と対面で会う、ということは相互に関係があると言えよう。

当該結果はあくまで相関関係であり、因果関係を直接検討しているわけではないが、ネットの利用時間が多いことは、会ったことがない人とのネット上のやりとりの可能性、さらには実際にそうした人と会う可能性をも増加させるといった傾向が読み取れる。

また、会ったことがない人とのやりとりは、実際に対面で会う可能性も増加させる可能性がある。

一方、ネット利用時間と自撮り被害、JKビジネスの認知の間には、弱い関連も認められなかった。唯一JKビジネスの認知に学年が関連していた程度(中1から高3へと上がるにつれて、知らないと答える傾向が減る)であった。

6 まとめ

本調査は、効果的な児童ポルノや自撮り被害防止対策を実施するにあたり、まずは中・高校生のインターネット利用状況や子供の性被害に対する認識を測定することを目的として行われた。

愛知県内の中高生 19,851 名が回答したアンケートを分析した。スマホ保持率は、中学生で約7割、高校生では9割以上と非常に高かった。

また、インターネットに接している時間も、1日に4時間以上ネットをしている生徒が、中学生で2割、高校生で3割程度いた。

会ったことがない人とのネット上のやりとり、自分の顔をSNSに上げた経験、ネットで知り合った人と会った経験を尋ねた結果、これらの経験はごく少数が行うというのではなく、現在の中高生、特に高校生にとってはよく見聞きする事象ということができよう。

自撮り被害の可能性がある場面での対応、JKビジネスに関わる可能性を直接尋ねたところ、大半はそれらに対してリスクを回避する回答を示した一方、自撮り被害の認知、JKビジネスの認知は高いとは言えなかった。

項目間の関連を分析した結果、ネットの利用時間が長いほど、会ったことがない人とネット上でやりとりをしたり、実際に会ったりする経験があるという関連が示された。

ここから、ネットの利用時間の上昇に伴い、自撮り被害に会う潜在的なリスクが上昇する傾向が読み取れた。

ただし、ネットの利用時間が長い者ほど、自撮り被害の認知やJKビジネスの認知といったネット利用のリスク因子を知っているといった関連は見られなかった。

つまり、ネットを長時間利用するだけで、利用のリスクを自然と知っていくわけではない可能性が示唆され、そこに啓蒙・介入の余地があると言える。

今後は、これらのことを鑑みながら、子供の性犯罪被害防止に向けて、啓蒙・介入の余地がどのように存在し、啓蒙・介入施策が被害防止にどの程度、またどのように寄与していくのかを継続的に検討していく必要があるだろう。

引用文献

愛知県警察本部少年課 (2018). 平成 29 年度中における少年非行・子供の性被害状況について 未
公刊

齋藤長行・本庄勝・橋本真幸. (2015). 高校生のスマートフォンの長時間利用状況を明らかにする
ための基礎調査研究. 第 33 回情報通信学会大会. 東京, 11-27.

子供の性被害防止アンケート【全部で22問】

実施機関 愛知県警察

1. 学職

1. 中学生 2. 高校生

2. 学年

1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生

3. 性別

1. 男 2. 女

4. 自分専用の携帯電話（スマートフォンを含む）を持っていますか。

1. 持っていない 2. ガラケー（キッズケータイ） 3. スマホ 4. 両方

5. 1日にどれくらいインターネットを使いますか。（タブレット等、ゲーム機、保護者のスマホ等を使うことも含む）

1. しない 2. ～1時間 3. 1時間～ 4. 2時間～ 5. 3時間～ 6. 4時間～ 7. 5時間～

5. で「1. しない」にマークをした人は 6. ～ 11. は答えなくて良いです。

6. 一番、よくするのは次のどれですか。（1つ だけにマークをつけてください）

1. LINE やツイッター（SNS） 2. ゲーム 3. YouTube等の動画 4. 勉強 5. その他

7. 動画投稿をしたことがありますか。（YouTube、ストーリー、ツイキャス、LINELIVE等も含む）

1. 一度もない 2. 一度はある 3. 何度もある

8. ネットゲームやスタンプなどの課金（ポイントを貯めたのも含む）やネット通販でお金を使ったことがありますか。（ひと月あたりの利用額にマークをつけてください）

1. 一度もない 2. ～500円 3. 500円～ 4. 1000円～ 5. 5,000円～ 6. 10,000円～
7. 50,000円～

9. 会ったことがない人とネット上でやりとりをしたことはありますか。

1. 一度もない 2. 一度はある 3. 何度もある

10. ネットで知り合った人と実際に会ったことはありますか。

1. 一度もない 2. 一度はある 3. 何度もある

11. 自分の顔をSNSに上げることがありますか。（アプリのアイコンを顔写真にすることも含む）

1. 一度もない 2. 一度はある 3. 何度もある



12. もし、あなたが「下着姿や裸の写真を撮らせて」「送って」と頼まれたらどうしますか。

1. 絶対断る 2. たぶん断る 3. 交際相手等に何度も頼まれたら送るかも 4. たぶん送る
5. 送る

13. 「自画撮り被害」とは「自分の裸や下着姿の写真を送って被害にあうこと」ですが、知っていましたか。

1. 意味も知っていた 2. 言葉は聞いたことがあるが意味は知らなかった 3. 聞いたことがない

14. 「自画撮り被害」にあった人をあなたの周りで聞いたことがありますか。

1. 一度もない 2. 一度はある 3. 何度もある

【裏面もあります。】

15. 「自画撮り被害」にあったら誰かに相談しますか。
1. 相談する 2. たぶん相談する 3. たぶん相談しない 4. 相談しない
16. 15. で1「相談する」2「たぶん相談する」と答えた人は誰に相談しますか。
(一番最初に相談すると思う人にマークしてください)
1. 先生 2. 保護者 3. 友達 4. 警察 5. ネットの知り合い 6. その他
17. 15. で1「相談する」2「たぶん相談する」と答えた人は誰に相談しますか。
(二番目に相談すると思う人にマークしてください)
1. 先生 2. 保護者 3. 友達 4. 警察 5. ネットの知り合い 6. その他
18. 「JK(女子高生の略称)ビジネス」※という言葉を知っていますか。
1. 意味を知っている 2. 聞いたことがあるが意味は知らない 3. 聞いたことがない
※ 「異性の客と会話やゲーム等をする、散歩をする、個室でマッサージや添い寝をするなどして収入を得ること」
19. 「JKビジネス」で働いている18歳未満の知り合いがいますか。
1. 一人もいない 2. 一人はいる 3. 複数人いる 4. 噂だけは聞いたことがある
20. 「JKビジネス」に誘われたらどうしますか。(男女を問わず、自分の立場におきかえて回答してください)
1. 絶対断る 2. たぶん断る 3. 条件が良ければ働くかも 4. 条件が良ければ働く
5. 働いている(いた)
21. 18歳未満の子が「JKビジネス」で働くことをどう思いますか。
(一番目に思うことをマークしてください)
1. お金のためならしかたがない 2. 働く子も客も納得しているから問題ない
3. みんなやっていることだから問題ない 4. 風俗※や薬物などの危ない世界につながりそうで危険
5. 親や家族を悲しませるかもしれない 6. そもそも働くべきではない
※ 「一般的に性的なサービスを行うことで収入を得ること」
22. 18歳未満の子が「JKビジネス」で働くことをどう思いますか。
(二番目に思うことをマークしてください)
1. お金のためならしかたがない 2. 働く子も客も納得しているから問題ない
3. みんなやっていることだから問題ない 4. 風俗や薬物などの危ない世界につながりそうで危険
5. 親や家族を悲しませるかもしれない 6. そもそも働くべきではない

全部終了したら、もう一度マークシートの回答用紙を見直し、特に次の項目に注意をしてください！！

- ① 質問と同じ番号の回答欄にマークがしてありますか。
② 同じ回答欄に、いくつも(複数の)マークをしていませんか。
③ 問の5. で「1 しない」にマークを付けた人は、次の回答が、マークシートの回答欄「12」からとなります。
回答欄を間違えて、続けてマークをしていませんか。

アンケートは以上となります。ご協力ありがとうございました。
配られた封筒にアンケート用紙と回答用紙を入れて、封をしてから提出してください。

編集発行

平成 31 年 3 月

愛知県警察本部生活安全部少年課

アンケート監修

兵庫県立大学環境人間学部竹内和雄准教授

調査分析

南山大学人文学部心理人間学科土屋耕治講師

名城大学人間学部原田知佳准教授